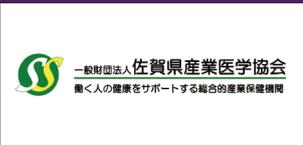


一般財団法人佐賀県産業医学協会 様

User Profile



一般財団法人佐賀県産業医学協会
所在地：佐賀県佐賀市鍋島町八戸
1994-1
設立：1977年
理事長：木本 雅夫

概要：佐賀県内の職域における健康管理と作業環境管理を支援する労働衛生機関として1977年に設立。主な事業は、健康診断、特定健康診査・特定保健指導、作業環境測定、産業保健支援、メンタルヘルス支援など。近年は職業性疾病の予防に加え、人間ドック、過重労働対策、メンタルヘルス対策、生活習慣病対策など、労働衛生を取り巻く環境の変化へ適切に対応すべく、各種機器の整備、スタッフの充実・技術の向上に努めている。

URL：
<http://www.saga-sanikyo.or.jp/>

健康診断の結果というデリケートな情報を送るため

封入封かん機「DI950」および郵便料金計器「Connect+1000」を導入 作業の自動化により安全かつ効率的な書類の送付が可能に

「働く人の健康確保と作業環境の改善をサポートする」県内唯一の総合的労働衛生機関である佐賀県産業医学協会。これまで同協会では受診者に書類を送付する際、人手で封入・封かんを行っていましたが、健康診断の結果という極めてデリケートな情報を扱うという点から万が一にもミスは許されず、担当者の負担は大きいものでありました。そうした中、新たな事業のスタートとともに作業の大幅な増加が見込まれたことから、同協会はピツニーボウズの封入封かん機「DI950」および郵便料金計器「Connect+1000」の導入を決断。ミスなく効率的に書類を送付できるしくみを構築しました。

健康診断の件数が増え 種類も多様化したことで 作業が限界に

県内の事業所を対象とした健康診断や作業環境測定などを手がける佐賀県産業医学協会。健康診断については県内の事業所約1,500社と取引があり、一般的な健康診断から有害業務に従事する労働者に向けた特殊健康診断、人間ドックまで幅広くカバーしています。また、専用の検診車を7台保有しており、県内各地を巡回することで受診者の負担の軽減を図っているほか、2011年には佐賀市内に新社屋を建設し、健康診断の受け入れを開始。近年はメタボリックシンドロームの予防と改善を目指す特定健康診査と特定保健指導や、ストレスチェック制度に対応するためのメンタルヘルス対策にも業務を拡大し、労働者のトータルな健康作りを支えています。

さて健康診断を実施するにあたっては、書類の送付作業が大量に発生しますが、かつて同協会ではこれらをすべて人手で封入・封かんしていたため、担当者に大きな負担がかかっていました。この点について業務部 業務課 主任の山口和大氏は「約1,500社の事業所に健診案内と受診者名簿を送付。さらに約4万名の受診者に対して健診前に受診票、健診後に健診結果を送るため、処理量は年間で約8万通に達します。送付作業は12名のスタッフが専任で行っていますが、月によって送る量の差が大きく、繁忙期には長時間の残業が発生したり、作業に遅れが出たりしていました。また、健診結果など個人の健康に関わる極めてデリケートな情報を

扱うため、書類の封入ミスや誤送付は万が一にも許されません。そこで作業においては2重3重のチェックをかけていたので、担当者には肉体的にも精神的にも大きな負担がかかっていました。さらに、健康診断の種類も増えたことで、送付の作業が増加・複雑化してきており、人手に頼った作業には限界が近づいていました」と説明します。

そうした中、2015年12月に労働安全衛生法が一部改正され、労働者数50名以上の事業者に対しストレスチェックの実施が義務付けられました。このため、同協会ではストレスチェックの事業者からの受託実施に対応できる体制をとることとし、ストレスチェックの調査票および結果票の送付という業務が新たに発生することになったのです。当時について業務部 部長の雪竹史郎氏は「ストレスチェックの受診者を年間3万人と想定すると、追加で合計6万通の書類送付が発生しますが、とても現状の体制では対応できないと判断しました。そこで、作業の自動化ができないか検討することにしたのです」と振り返ります。

さまざまな種類の 封筒・書類に対応可能 バーコードによる チェック機能も評価

佐賀県産業医学協会は、取引のある代理店に相談したり、展示会に足を運んだりして情報を収集。複数の製品を比較・検討した中から、ピツニーボウズの封入封かん機「DI950」の採用を決めました。その決め手は、A4三つ折りの長

一般財団法人佐賀県産業医学協会 様

3定形封筒やA3二つ折り、A4の角2型封筒等に対応できる上、異なる種類の書類を1つの封筒に封入できるなど、同協会が必要とする要件をすべて満たしていた点にありました。

「さらに、書類の封入ミスや誤送付を防止できる、バーコードによるチェック機能を備えていることも大きなアドバンテージでした。これらの点に加え、機械のサイズや全体的なコストなども考慮し、最終的に採用を決めました」(山口氏)

同協会では、送付する書類の数が最大で6枚に及ぶことを鑑み、封入点数を増やすためのオプション製品「ハイキャパシティ・シートフィーダー」も採用。さらに検便・検尿等の容器を手封入した後の封かん作業のため、郵便料金計器Connect+1000を併せて導入することにしました。

2016年1月、同協会は機器を導入。約2カ月の調整・テストを経て、3月より本番稼働を開始しています。

ストレスチェックの書類送付に 関わる工数 をDI950による自動化で大幅に削減

今回、佐賀県産業医学協会が導入したDI950は、主にメンタルヘルス支援業務において、ストレスチェックの調査票および結果票の封入・封かん業務に使われています。

「現在は1日に数百通の書類を処理していますが、自動化によって作業の工数は大幅に削減されました。仮にこれを手作業で行っていたら、おそらく専任のスタッフがプラス3名は必要だったでしょう。その人件費等を考えれば、かなりのコストの節約につながっていると思います」(山口氏)

なお同協会では、送付の作業を行うにあたってセキュリティにも十分な配慮を払っています。DI950を設置した部屋には防犯カメラを設置し、作業の状況を可視化するとともに、入退室管理システムによりIDカードを持った担当者以外の入室をシャットアウト。さらに作業は専用ルーム内で完結することとし、書類を外部に持ち出さないようルールを定めています。



「DI950の導入によってミスの発生するリスクを極限まで減らした上で、こうした施策をとることで、安全に書類を送付できるしゆきを構築できました」(雪竹氏)

健康診断の書類の 封入・封かんも完全自動化 他の業務にも利用を拡大したい

今後について佐賀県産業医学協会では、現在は一部の利用にとどまっている健康診断の受診票や診断結果の封入・封かん作業についても、2018年度中に完全自動化したいとしています。また、その他の業務にも利用を拡大していくことを検討しており、雪竹氏は「たとえば事業者へのDMの送付に使えないかと考えています。現在、こうした作業は人手に頼っていますが、これをDI950で行うことで大幅に効率化できる見込みです。そのためには機器の調整などが必要になりますが、ゆくゆくはこうした作業も自動化できればと思います」と将来の展望を述べています。

最後にピツニーボウズに対しては、導入からアフターサービスまで迅速で丁寧な対応に感謝していると、今後も高性能・高機能な製品のリリースに期待していると語ってくれました。

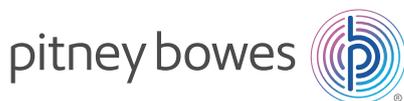
DI950
Connect+1000
導入事例



業務部
部長
雪竹 史郎 氏



業務部 業務課
主任
山口 和夫 氏



ピツニーボウズジャパン株式会社
〒140-0001
東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー 12階
TEL.03-5756-1200 FAX.03-3280-8900